

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第106号

ななえ古写真物語

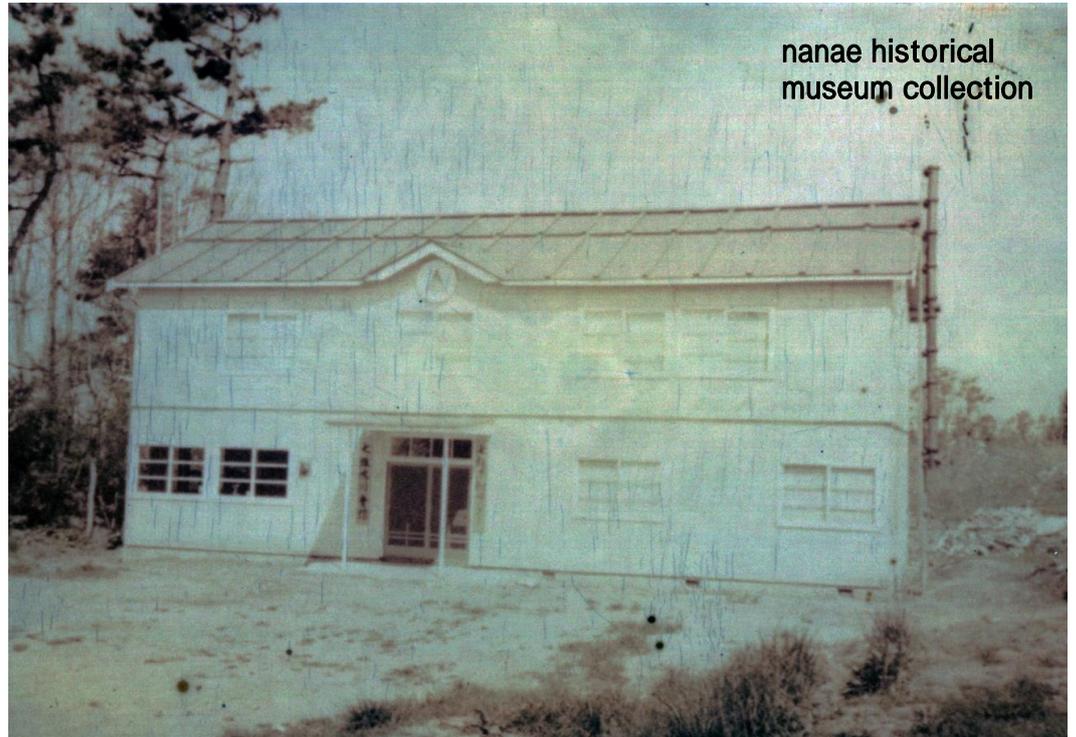
VOL. 106

空白の時

七飯果樹センター

昭和41年

鳴川地区



少しぼやけた写真で分かりにくいかと思うが、上の写真は、昭和41年に竣工した「七飯果樹センター」を写したもので、セピア調の原本をスキャンして判別可能なまでに、画像処理したものである。

七飯町の果樹組合のなりたちについては、「ななえのリンゴ」と題してピチャリの69号に、リンゴ栽培史とともに触れた。その時には昭和36年に鳴川果樹共同防除組合が、アメリカ製の消毒機械のスピードスプレーヤーを購入し、防除体制を整えたことから、リンゴの品質が向上し全国的な品評会でも賞をとるほどまでになったことは記したが、この七飯果樹センターについては、何も説明していなかった。

そこで、改めてこの建物について調べてみたものの、思いのほか資料が見当たらないのである。『七飯町史続刊』には、昭和55年に鳴川果樹センターで、新生の七飯果樹組合設立総会が開かれたことが記されているが、七飯果樹センターの文字はみあたらず。建物がいつ、何の目的で建てられたのかは記されていない。写真原本の覚書に「力の結晶 我等がセンター竣工する 41年春」とあることだけが、現在唯一の手がかりである。

そんな謎に満ちた建物の写真をあらためて見ると2階建ての箱型。中央上部には 枠に 印を組み合わせたマークが見られるが、これが何を意味するかは分かっていない。入口には看板が2枚掲げられ、左は「七飯鳴川會館」、右は「七飯果樹センター」の文字が書かれている。

建てられていた場所は、鳴川町の国道5号沿いにあるアークスというスーパーより、やや山側であることはわかっている。なぜなら、現在も七飯町果樹センターが存在しているからだ。ただ、そのはじまりが記録されていないのだ。

この辺りは、明治期の七重官園時代に第2家畜房が設置されたり、町内でも最も古いといわれる「印度」という品種のリンゴの木が残されていたり、昭和11年に北海道陸軍大演習があり、昭和天皇がご来道したおりに、七飯町の梨を献上したことを記念した「御料梨記念碑」が移設されるなど、七飯町の農業史を語る上で重要な場所といえるが、なぜか、昭和40年代に、記録されていない空白の時があるのである。（私の調査不足なのだろうが・・・。）

謎に満ちた七飯果樹センター竣工について詳しい調査は継続中である。もしキオクをお持ちの方がいたらご指導を仰ぎたい。

7日

夜の博物館第4夜、お話のテーマは「身近な鳥のくらし」。北海道教育大学函館校の三上修氏をお招きし、スズメやカラス、ハトなどの生態や見分け方などを当館収蔵の剥製や先生から出されるクイズを通して、お話は進みます。万葉集にはカラス、古事記にはスズメが出てくるそう。他にも実はツルはエベレストも越えられるとか、ペンギンがいるのは、南極だけとか。「おもしろい!」「また聞きたい!」など感嘆の声。「知る」楽しさを存分に味わった一夜でした。



11月の予定

1	火
2	水
3	木 文化の日
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日
21	月
22	火
23	水 勤労感謝の日
24	木
25	金
26	土 ジュニア探検クラブ
27	日
28	月
29	火
30	水

11月の休館日はありません

ツワブキ

第三野草園でツワブキの花が目を引きます。ツヤのある葉と黄色い花。江戸時代初期から茶室の庭に植えられていたといえます。そういえば佃煮もおいしい。食欲の秋です。



29日

ジュニア探検クラブでは、草木染めに挑戦しました。まずは周辺を歩き、秋の花や木の実などを観察。途中、木登りを始めたりして、秋の高い空に賑やかな声が響きます。さて肝心の草木染め。玉ねぎの皮を使い、ビー玉で絞りの模様をつけ、それぞれの一枚が完成しました。木々の間にロープを張り、個性豊かな布が風にそよぎます。もう一度やりたい人は?の問いかけにたくさんの方が上がりました。



町民文化祭が開催されます。

10月29日(土)・30日(日)の2日間にわたり、歴史館が第2会場となり、様々な展示や催しものが行われます。

一例を紹介しますと、屋外では、昔ながらのせんべい焼き、ペットボトル風車、屋内ではゴム鉄砲作り、射的ゲーム、石臼挽きの体験、絵本の読み聞かせもあります。御家族で、お仲間、是非当館まで足をお運び下さり、合わせて常設展示室や学習サービス室なども見て頂けると幸いです。

芸術の秋、食欲の秋、町内の様々な文化に触れられる2日間です。



編集後記 ~tawagoto~

現在、企画展でこけしを並べているのだが、開始時と比べ、密かに倍近くまで数が増えている。会期中に寄贈されたのだ。お陰様で、少し淋しげなコーナーだったが、いまや活況を見せている。ありがたいことだ。あらためてその様子を眺めると、似てはいても、顔や模様と同じものはないことに気付く。手仕事で作られるからこそその味わいだ。モノの持つ魅力は深い。そんなこけしたちに癒され、今日も繁雑な時を乗り切っている。(やまだひさし)

~ピチャリ~
Pichari 第106号

平成28年10月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp